

令和5年度「全国学力・学習状況調査」及び「佐賀県小・中学校学習状況調査」の結果についてのお知らせ

佐賀市立赤松小学校

4月に文部科学省による全国学力・学習状況調査（以下、全国調査）と、佐賀県教育委員会による佐賀県小・中学校学習状況調査（以下、県調査）を、それぞれ6年生と5年生を対象に実施しました。全国及び佐賀県内の義務教育の機会均等と水準向上を目的とした調査です。児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析を通して教育指導の充実と改善を図り、児童（生徒）一人一人の学習改善や学習意欲の向上に役立てていきます。

結果を基に、本校児童（生徒）の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和5年4月18日（火）

■ 調査の対象学年

全国調査：小学校第6学年児童 県調査：小学校第5学年児童

■ 調査の内容

<全国調査>

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
 - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

<県調査>

教科：国語、算数（前年度までの学習内容が出題範囲）

■ 調査結果及び考察について

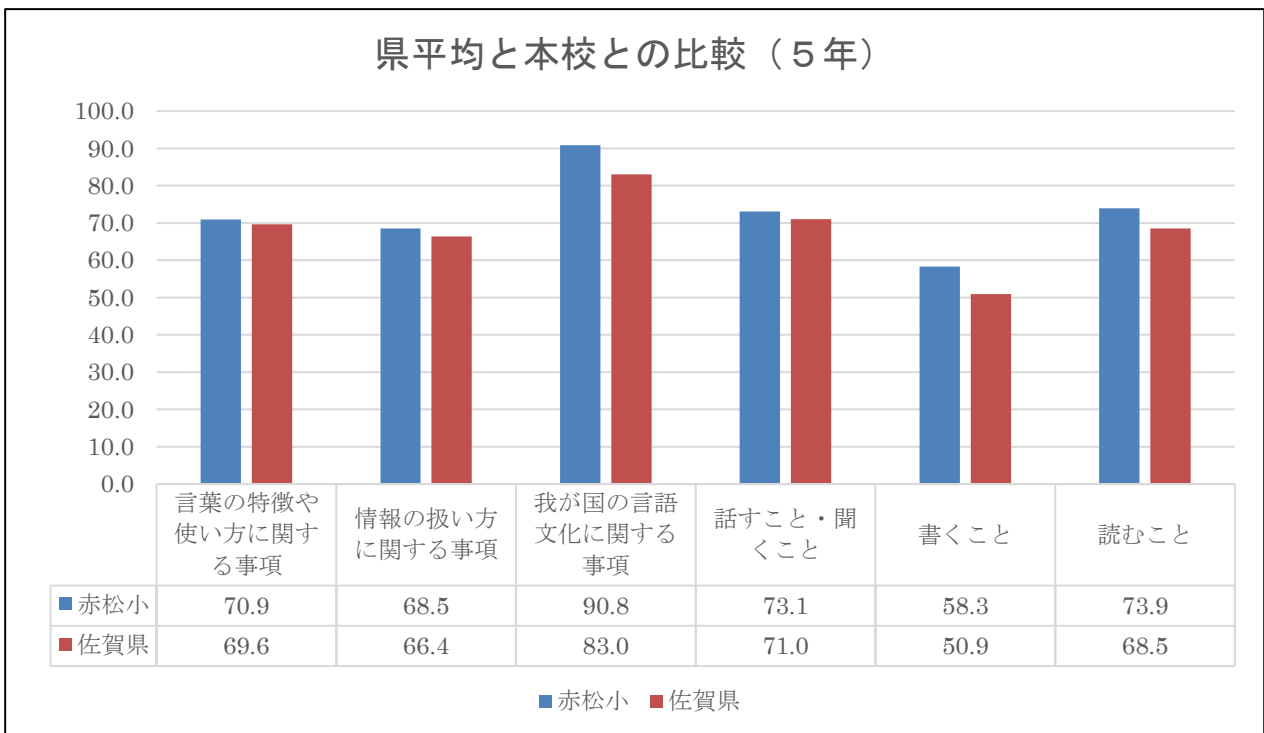
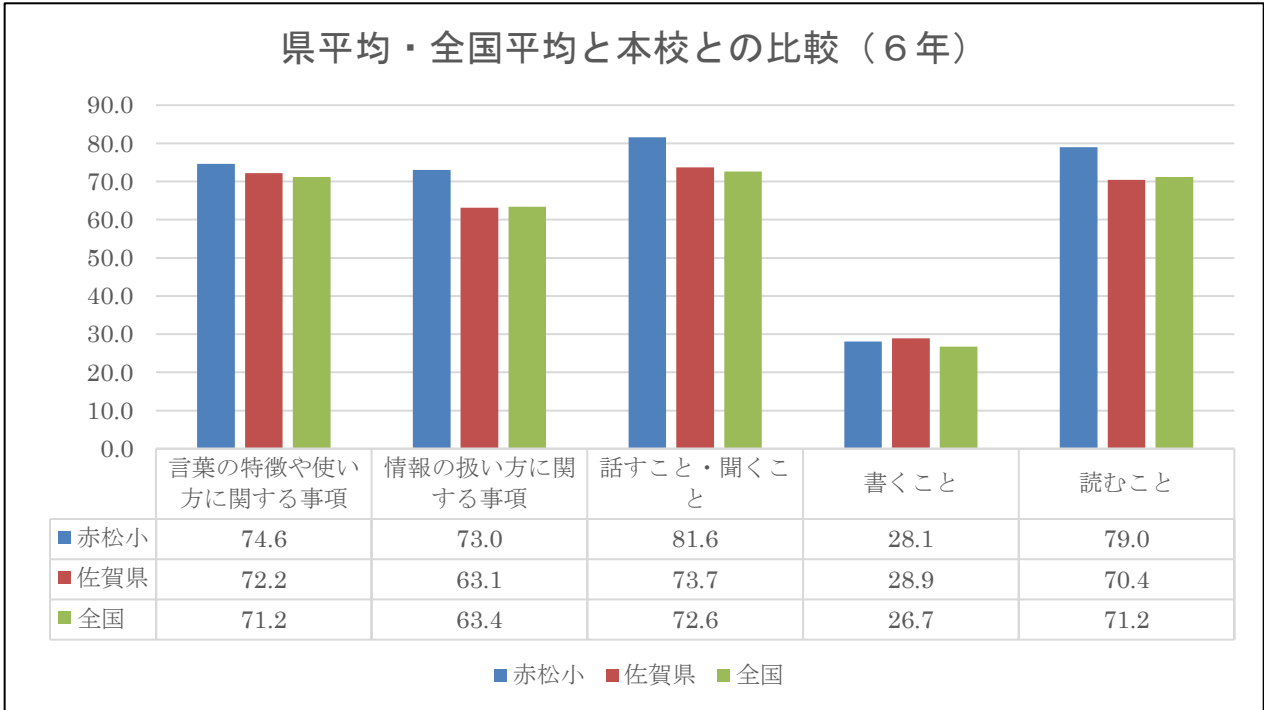
全国調査及び県調査は、対象は6年生及び5年生、教科は国語と算数です。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。このように、限られた学年と教科及び出題範囲です。そのため、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

1 国語

<全体正答率>

	本校	佐賀県	全国
6年生	74	68	67.2
5年生	71.1	67.4	—

<領域別>



(1) 結果

6年生、5年生ともに全体正答率では、全国・佐賀県の平均正答率を上回っています。領域別にみても同様です。また、グラフには表していませんが、思考力・判断力・表現力を問う記述式の問題でも、正答率が全国・佐賀県の平均正答率と比べて高いです。

(2) 成果と課題・手立て

知識及び技能（言葉の特徴や使い方に関する事項、情報の扱い方に関する事項）

多くの問題で全国・佐賀県の平均正答率を上回っています。漢字の意味や敬語の使い方を理解し、自分の表現に用いることに個人差があります。そこで、多くの語彙を増やし言語生活を豊かにするために、これらの言葉の意味を知ることや敬語の利用など、実際の言語生活で用いることができるようにします。日常の言語活動をふり返ることを通して、実際に聞いたり読んだりする場面を意識できるよう指導を工夫していきます。

話すこと・聞くこと

多くの問題で全国・佐賀県の平均正答率を上回っています。目的をもってコミュニケーションを図ることを意識させる指導の積み重ねが生きていると思われます。見学やゲストティーチャーを招いたりしてインタビューをすることやグループでの話し合い活動、学級会など、話し合うことを取り入れた学習を、今後も継続していきます。

書くこと

多くの問題で全国・佐賀県の平均正答率を上回っています。しかし、定められた条件や字数に合わせて文を書くことに若干の課題が見られます。全学年において、条件作文やキーワードを使った学習のまとめを書かせる指導に取り組んでいきます。

読むこと

多くの問題で佐賀県・全国平均を上回っています。読書に親しむことが一定の効果を上げたようです。これからも読書をすすめ、読むことの重要性を指導していきます。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 子どもの主体的な学びにつながるよう、子どもに応じた学習（個別最適な学び）や、子ども同士の話し合い（協働的な学び）を取り入れた学習に取り組んでいきます。
- 書くことについては、条件作文を書かせたり、目的に応じた振り返りを書かせたりする学習を授業に取り入れます。目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながらかく機会を増やします。
- 読むことについては、目的に応じて文章の内容を要約し、自分の考えをもつことが求められます。作品の主題を読み取ったり、筆者の主張を読み取ったりする指導を積み重ねていきます。
- 話すこと聞くことは、自分の考えを発表したり、友達の意見を考えながら聞いたりする機会を国語やその他の教科でも設けます。また、授業の終わりに授業のまとめや感想、気付いたことなどを発表する場の設定を行います。
- テスト等での間違いを、確実に直させ、復習につなげていきます
- タブレットパソコンを活用し、週1回のスキルタイムの時間に、ドリル学習に取り組んでいます。まずは、前学年の学習内容の定着を図り、基礎・基本の確実な定着を図ります。

【ご家庭では】

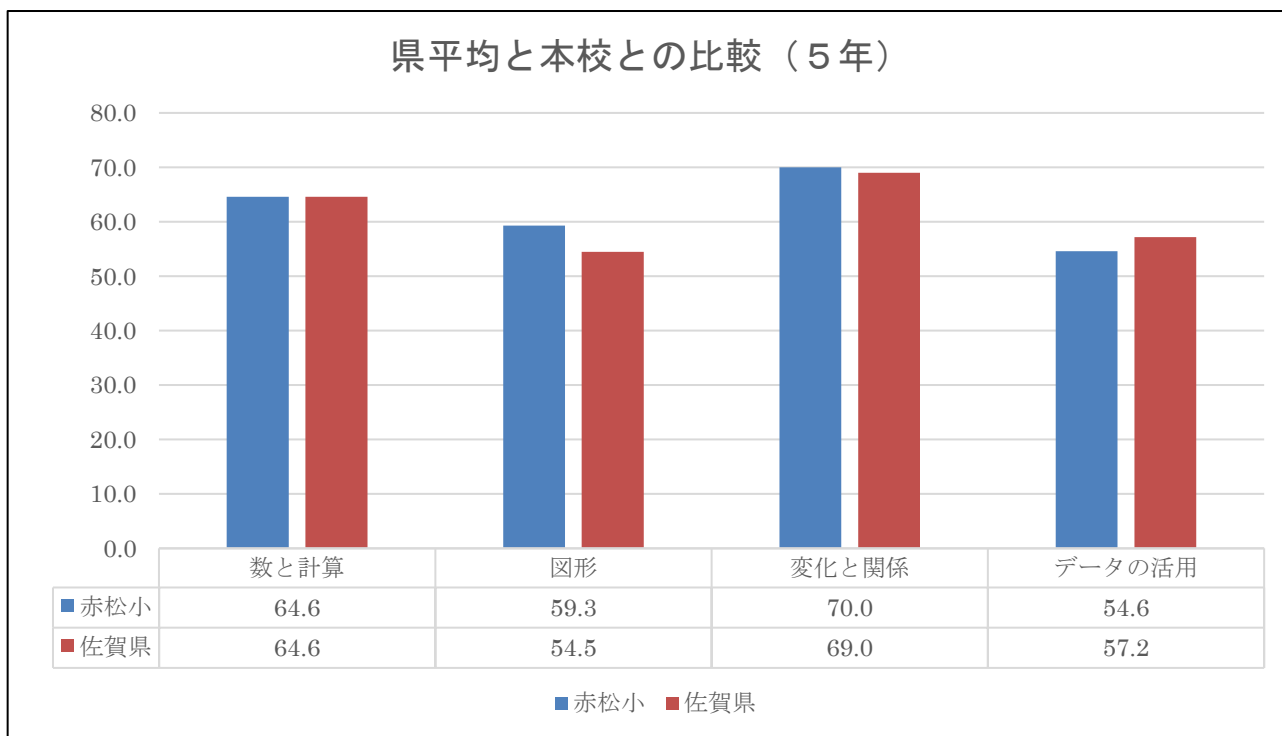
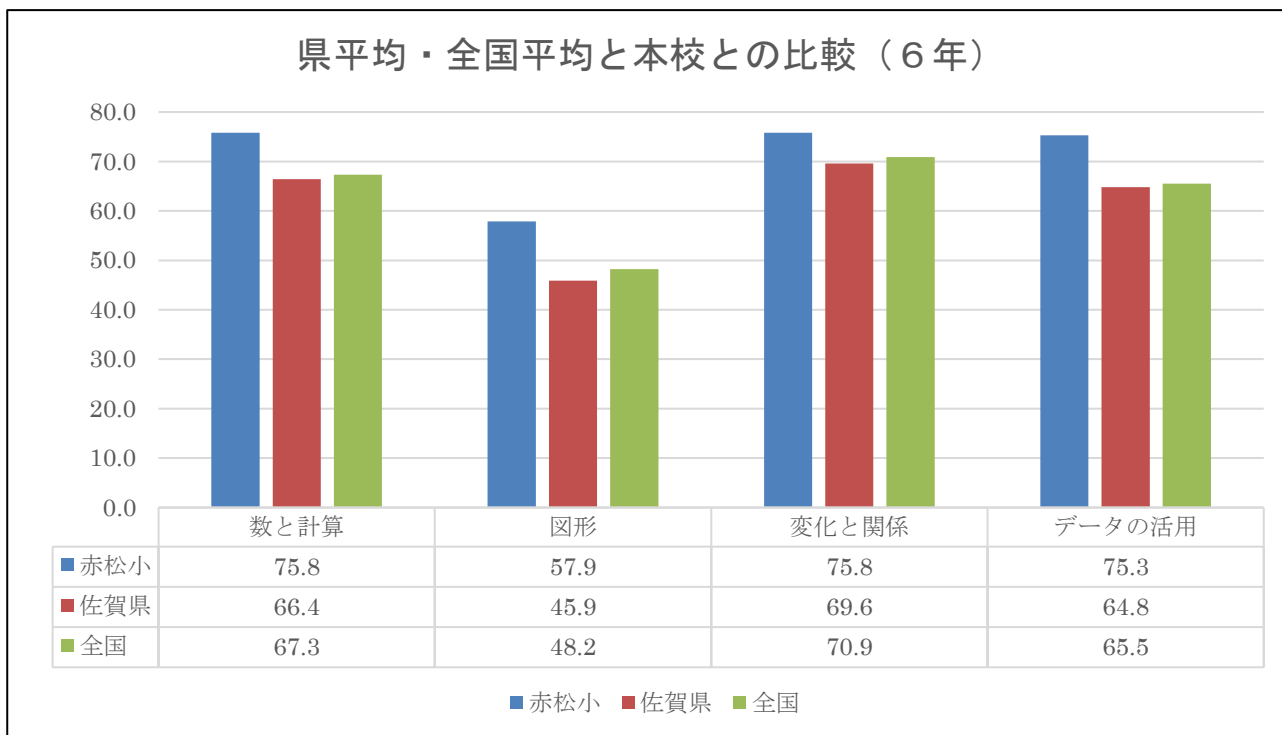
- 音読を大切にしていましょ。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。声を出して文章の内容を意識しながら音読することで、文章への理解が深まり、様々な表現方法や語句も身に付けることができます。全教科における学力向上の基盤となります。
- レインボー週間をきっかけとして、家族で本を読む時間を積極的に設けましょ。読書を通して、知識や想像力を豊かにし、知識の幅を広げることができます。また、家族での読書によって、お互いに会話する機会も増えます。1日10分程度、時間を見付けて読書をましょ。
- 本や新聞、テレビ等で新しい言葉に出会ったら、辞典で読み方や意味を調べるように声をかけて下さい。必要に迫られて覚えた言葉や漢字は、すぐに自分のものになります。また、習った漢字は日常的に日記や文章で書くよう、言葉かけや称賛をお願いします。

2 算数

<全体正答率>

	本校	佐賀県	全国
6年生	71	61	62.5
5年生	62.7	61.6	—

<領域別>



(1) 結果

国語と同様に、全体正答率では全国・佐賀県の平均正答率を上回っています。しかし、領域別に見てみると、県調査の「データの活用」においては、佐賀県平均正答率にわずかに届きませんでした。グラフに現れていませんが、本校の課題として、学力の二極化があげられます。算数は系統性が高く、下学年の学習内容が身につけていなければ積み上げが難しいという特性がありますので、四則計算などの基礎基本の定着の個人差によるものと考えられます。

(2) 成果と課題

数と計算

多くの問題で全国・佐賀県の平均正答率を上回っています。しかし、県調査において、概数の問題で、四捨五入して数の範囲を答える問題（以上、未満の意味を理解しているか）や小数のかけ算やわり算の問題では、佐賀県平均正答率均を下回りました。数と計算の学習には系統性があります。そのため、前の学年までに学習したことは次の学習につながっていきます。本校では、四則計算等の基礎基本の定着が図られるような指導を行います。また、タブレットPCを使って、前年度までの学習の復習を行います。

図形

多くの問題で全国・佐賀県の平均正答率を上回っています。6年生では台形や正方形、正三角形の意味や性質について出題されていました。5年生では分度器の使い方や対角線、垂直と並行の意味について出題されていました。平面や立体の特徴を捉えさせるように、教具を使ったり、タブレットPCを使ったりして指導していきます。

変化と関係

多くの問題で全国・佐賀県の平均正答率を上回っています。5，6年生ともに、2つの数量がどのように変化するかについて、比例の関係について理解することができています。数直線を使って変化する数を求める指導を、今後も継続していきます。

データの活用

多くの問題で全国・佐賀県の平均正答率を上回っています。表やグラフを読み取る力は概ね身に付いています。しかし、県調査において、折れ線グラフの読み取りが十分にできていないことによる誤答が見られました。必要な情報のみを収集すること、目盛りを読むこと、変化について読み取ること等ができるように指導をしていきたいと思えます。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 子どもの主体的な学びにつながるよう、子どもに応じた学習（個別最適な学び）や、子ども同士の話合い（協働的な学び）を取り入れた学習に取り組んでいきます。
- 学力の二極化に対応するため、3，4年生で指導方法改善教員と連携した指導を行っています。1つの学級を、等質や習熟度別に分けて学習したり、複数の教員で指導したりして、より一層の指方法の改善に努めます。それを受け、5，6年生では、子ども同士で教え合ったりする学び合いを進めていきます。
- 様々な見方や考え方ができるように、友達と話し合う活動を取り入れます。また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。友達と考えを紹介し合うことで自分の考えを確かめ、広げたり深めたりするようにしていきます。
- テストでの間違いを、確実に直させ、復習につなげていきます。
- タブレットパソコンを活用し、週1回のスキルタイムの時間に、ドリル学習に取り組んでいます。まずは、前学年の学習内容の定着を図り、基礎・基本の確実な定着を図ります。

【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 復習の一つとして、一度間違った問題を中心に再度解いてみるなど、自学としても取り組んで欲しいと思います。
- 算数を好きにするには、「学んだことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。生活の中で算数を使ってみてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、日常の中で量感を養うことができます。
- 「2割引したら、何円になる?」「320円と690円を合わせたら、300円と700円になって、約1000円ぐらいの支払いになるね」等の話をすることで、算数と生活とが結び付いていきます。算数に対する興味関心の高まり、学習意欲の高まりにつながっていきます。

3 学習や生活に関する調査（全国調査：6年生のみ）

（1）結果

調査項目	本校(%)	全国平均(%)
①人の役に立つ人間になりたいと思うか。	79.4	75.3
②先生はあなたのよいところを認めてくれるか。	58.8	49.9
③学校図書館や地域の図書館をよく利用するか。	10.3	2.5
④地域の行事に参加しているか 当てはまる	18.6	24.3
⑤外国のことについてもっと知りたいか	32.0	40.8

①では、人の役に立つ人間になりたいという気持ちが高いことが分かります。自分の得意なことを伸ばし、世の中の役に立つことを考えていることがうかがえます。②では、担任と児童との良好な関係が構築されていることがうかがえます。そのことが、学習の定着につながっていると思います。③では、児童が読書に親しめる様子が見られます。読書の習慣化が学力により影響を与えることが分かります。

④、⑤のように、地域行事への参加や外国への関心については、全国平均より低めの結果となっています。これまでコロナ禍の影響もあり、行動の自粛等の影響もあるかもしれません。

（2）改善に向けての取り組み

【学校では】

- 日常のリズムを整え、学校生活を楽しく過ごせるよう、子どもたちに「出番、役割、承認」で、自己肯定感を高める指導を続けていきたいと思えます。委員会や学校行事、道徳の授業などを有効に活用していきます。
- 外国語活動や外国語の授業を通して、海外への興味関心を高められるようにします。また、地域行事への参加を呼びかけ、ふるさと赤松を大切に育てていきたいと思えます。

【ご家庭では】

- 本校で取り組んでいる「レインボー週間」の「レインボーファイル」は、小学校6年間の学びの足跡になる大切なものです。児童への励ましの言葉が意欲につながります。生活リズムを整え、学習に迎えるよう、励ましのお声かけをお願いします。
- 地域行事への参加を呼びかけたり、新聞や報道等で海外の様子について触れたりする機会を設けたりして、広い関心をもてるよう、お声掛けをお願いします。